

十一月十二日

朝、古谷誠章レクチャー。ワークショップを通して3度目のカ
ルロ・スカルパ。高熱をおしての講義で申し訳なかった。一回毎
に古谷のスカルパ理解が深まってゆくのを感ずることができ
る。日本では成熟してゆくタイプの建築家は出現していないが、古谷
はそれを自然に行っているようだ。六十過ぎた古谷の建築はきつ
と味わいの深いものになるにちがいない。

写真が良かった。毎回同じ対象を論しながら使用するスライド
が異なっている。というよりも明らかに深化している。スカルパ
の光の動きに対する直観、影を背景とするテクニクなどを学ば
せてもらった。

午後、佐賀県大和町町長来校。夕方、二川幸夫講義。二川氏も
珍らしくカゼで熱があるらしく、それでも二川節は変わりなく、皆
に驚きと元気を与えてくれたように思う。開口一番。「俺は世界
で一番建築を知っている。」何故かこんな科白が皆の顔をゆるま
せるのだ。大徳寺真珠庵が恐い空間であるとの話は初めて聞いた
のと、桂離宮への評価がネガティブであるのを新鮮に聞いた。

十一月十三日

ワークショップ最終日。西谷章、制震構造の考え方。構造の側
から建築がコンピュータ制御のロボットになるといふ。小池一子
講義。小池さんの母親の話と、その母親が残したクララ洋装スタ

ジオの改造の話。松村秀一のイームズ邸への親近感と同じ視線を
感じる。何を今視ているのかが、何を発言しているのかよりも大
事な人なんだなと痛感した。

ワークショップの収穫は他の何よりも慶応大学図書館千村君の
参加と、彼の身障者としての空間の認識の仕方への考え方の深化
だった。彼の考え方は開放系技術論の展開にとっても重要なもの
になるだろう。又、各先生方の進化振りが私をひどく励ました。
停滞してはいけない。

十一月十四日

諏訪行。スタジオボイス取材。中里和人等と。藤森の神長宮守
矢史料館。何度も来ている建築なのでわざわざ足を運ばなくとも
書けるのだが、気持ち休ませてやろうと考えて取材に同行した。
時々、こんな事が必要だ。夜十時帰宅。夜半二時まで寝て、ノコ
ノコ起きて室内原稿書く。諏訪へ行く車の中で突然、武甲山を書
こうと思いついたのだが、朝五時修了。又も、 \times 過ぎてのすべり
込みである。でも考えていた放置自転車を書くのよりは良かった
ように思う。室内の目ざわりデザインの連載は仲々、調子が出な
いままに毎回苦しむばかりだが、もうすぐいよいよかけをつかみ
そうな予感がある。今はそのきつかけがつかめぬままにいたので、
やたら大物を相手にお茶をにごしているが、近々、具体的に身近
なモノをやる。本当に目ざわりだと考えているモノをやりだした
ら、我ながら物騒だと思ふよ。これ以上友人を失くしたくないし。
敵は増えてもかまわないけど。

十一月十五日

早朝から大学で幾つかの会議。自分自身の価値観をしつかり持

たぬと何も視えてこない世の中になった。学内事情への対応も同じ。私は謂はゆる先生のアウトサイダーである事を忘れぬようにしなければ、学内政治に巻き込まれて消耗してしまう。消耗するくらいなら先生はやめた方が良い。問題意識が明快な、すなわち良い建築を作り続けて、初めて私のアイデンティティが在ることを肝に銘じる。製図採点の後、夕方、再び先生方と会議。世田谷村の仕事が気になって仕方がないが、時間が取れない。今はスナップを信頼するしかない。